

研究ノート

日本人女性電子音楽作曲家データベースプロジェクトに関する研究計画 Research Plan for Creating a Database of Electroacoustic Works by Japanese Women Composers

：渡辺 愛

Ai WATANABE

東京藝術大学音楽学部音楽環境創造科

Department of Musical Creativity and the Environment

Tokyo University of the Arts

森下 周子

Chikako MORISHITA

作曲家

Composer

概要

本稿では、日本人女性電子音楽作曲家による作品についてのデータベースを作成する計画について論じる。集めたデータは、EMSAN (Electroacoustic Music Studies Asia Network) の国際電子音楽作品データベース化プロジェクトへ登録することを検討している。

This paper discusses our research plan for creating a database of electroacoustic works by Japanese women composers. The gathered data will be also registered with EMSAN (Electroacoustic Music Studies Asia Network) database.

1. 研究の背景

#MeToo ムーブメントが世界規模で巻き起こり、日本でも医学部受験における性差別、性暴力に反対するフラワーデモなど、フェミニズムに起因する社会運動が存在感を増している。もちろん音楽界もその流れから無縁でいられるはずもなく、2016年のドイツのダルムシュタットで行われた国際ジェンダーサーベイ GRID (Gender Research In Darmstadt) (Grid 2016) を皮切りに、2017年には音楽イベント参加者のジェンダーバランスを 50:50 にしようという国際キャンペーン Key Change (PRS Foundation 2017) が EU サポートのもと始まり、東京藝術大学でもダイバーシティ推進室を中心に様々な企画やキャンペーンが行われている。

そのような機運の高まりを受け、筆者らは 2019 年に JWCM (女性作曲家会議; Japanese Women Composers Meeting) を立ち上げた。JWCM は 8 名の女性作曲家 (森下周子、渡辺裕紀子、牛島安希子、山根明季子、渡辺愛) をコアメンバーとするリサーチコレクティブで、女性作曲家の現状への理解を促し国外にもその声を届

けることを指針としている。これまでにシンポジウムや研究会などを行ってきたが、その中で生まれたのが日本人女性電子音楽作曲家による作品についてのデータベース作成というアイデアである。

海外では女性の電子音楽家の情報は近年明らかになりつつある。Andra McCartney による論文、How Women Composers of Electroacoustic Music Make Place For Their Voices (ヨーク大学、1997 年) (McCartney 1997) はカナダの女性電子音楽家の台頭と発展について詳細に考察されている。Liao Lin-Ni による論文、Taiwanese Women Composers and Mixed-Music (EMSAN、2009 年) (Liao 2018) では台湾という比較的ローカルな地域の女性作曲家の現状が記された。またデータベースの観点からみると、オンライン上で女性音楽家のメタデータを公開するサイトはいくつかある。rateyourmusic (RYM) のデータベースには women in electroacoustic, minimalism, tape music, musique concrète, free improvisation, and related genres と称する部門があり (Rateyourmusic 2019)、現在までに 186 名の女性ミュージシャンが登録されている。また Kapralova Society による women composers of new and experimental music stage & screen jazz and fusion (Kapralova Society 1998) には 255 名が登録されている。

しかし日本の女性電子音楽作曲家の情報となると、未だ質量ともに不足している。『日本の電子音楽』(川崎 2006) に記載されている 1929 年から 2005 年までの「日本の電子音楽主要作品」全 935 作品のうち、女性作品は 54 作品 (6%) で、残りの 881 作品 (94%) は男性によるものである。

政治的背景のもと、日本人女性作曲家の豊かな系譜は歴史から抹消されてきた。明治時代 (1868-1912) には「良妻賢母 (良い妻、賢明な母)」が女性の理想のあり方とされ、日本政府もその役割は家庭の管理と子どもの教育にあると強調してきた。そのような状況であって

注目に値するのは外山道子(1931-2006)である。外山はパリでダリウス・ミヨー Darius Milhaud やオリヴィエ・メシアン Olivier Messiaen に師事し、1937年パリでの国際音楽作曲賞の受賞という日本人初の快挙を成し遂げた作曲家である。さらにピエール・シェフェール Pierre Schaeffer の影響を受けコロンビア大学で電子音楽を学んだ経歴を持つことから日本の電子音楽作曲家のさきがけと考えられるが、外山の活動に言及する資料は国内では小林緑編著『女性作曲家列伝』(小林 1999)など非常に僅かな文献に留まっている。このような格差を問題化することは筆者が関わる JWCM の使命にも重なり、女性作曲家のデータを強化することは女性のエンパワメントと同義であると考えられる。

2. EMSAN への登録

EMSAN Database (Electroacoustic Music Studies Asia Network Database) は非アジア圏を含む音楽学研究者がアジアの電子音響音楽研究に取り組むための基礎資料となることを目的に作成されたデータベースである。2008年にソルボンヌ大学 MINT-OMF (Musicologie, Informatique et Nouvelles Technologies / Observatoire Musical Français, Université Paris-Sorbonne) によって開始され、日本では水野みか子氏を筆頭に、JSSA の研究者との共同プロジェクト「EMSAN/JSSA データベース」(水野 2012)として 2012年頃に立ち上がった。

EMSAN は「アジアのオリジナル言語を伝えつつ西欧語圏の音楽学に資すること」を目的としており、その点で日本人女性電子音楽作曲家作品データベースと理念が一致する。近年、ジェンダー議論が音楽の分野でも高まっているが、それらのほとんどは英語(ないしドイツ語かフランス語)で調査および議論ができる範囲のみを対象とし、いわゆる第三国の意見が反映されにくい状況にある。女性でアジア人である日本人女性作曲家は国際社会においてダブル・マイノリティーの存在であり、白人女性を前提とした議論やセオリーには当てはまらないことも多くある。このインターセクショナル・アイデンティティの問題に対する国際社会の意識と理解を高めるためにも、筆者らの声を海外に発信することは非常に重要だと考える。

さらに、深圳大学の Marc Battier 教授や元フランス国立視聴覚研究所所長の Daniel Teruggi らの責任監修のもと、EMSAN は 2007年の発足以来 2020年3月21日現在までに研究論文 699件、音楽作品 2426件のメタデータが登録されており、国際的に重要なデータベースであるが、特にアジアの女性作曲家のデータに関しては弱いのが現状である。筆者らの計画によって日本人女性作曲家の作品データを寄与することで相互補完の関係を築くことができると考え、本データベースプロジェクトは EMSAN への登録を検討している。

3. EMSAN データベースの現状と課題

EMSAN の音楽作品データベース上を調査したところ、現在日本人男性作曲家は 153名、日本人女性作曲家は 46名の登録があることがわかった。作品数は日本人男性作品が 948曲、日本人女性作品が 275曲であった。登録作品の参照先は EMSAN/JSSA データベース研究会の各編集者に委ねられており、それぞれの立場や状況に応じた範囲で登録されているため、実際の作品カタログは多数にも関わらず EMSAN 登録作品は僅少となっている作曲家が存在するケースや、重要な演奏会や音楽祭が追跡から漏れているケース、作品の重複など、データ上のばらつきも見られた。有志による入力作業を継続するのは容易ではなく、計画には人的および財政的資力も課題になると考える。

また、システム面においては、検索エンジンの性能向上が望まれる。ワード検索と項目検索で結果が著しく変わったり、同じワードを検索しても項目によって結果に相違が生じたりと、問題も散見される。作成後の管理や更新のための技術力の確保も併せて課題となると予想する。

それでも、既に 1223曲もの日本の作曲家による電子音楽作品が登録されていることは大きな蓄積であり、EMSAN にメタデータを加える有意性は十分認められる。本計画については、独立あるいは他機関との提携プロジェクトとしてデータベースを作成する可能性も睨みつつ、しかし当面は EMSAN への登録を中心的指針として進める。

4. おわりに

器楽を中心とする女性作曲家や演奏家についてジェンダー視点から考察する研究は厚みを増しているが、日本の電子音楽に関するジェンダー研究はこんにちでも未開の領域といえる。

「この世界を少しでも生き易くするためには、名実伴った男女平等を実現させることが何より必要です。それには女性の過去・歴史・現状を万人が知り、未来に向けてさらに積み上げていかなければなりません」(小林)と小林緑も述べるように、日本人の女性電子音楽家の情報を可視化することはインクルーシブネスへの橋渡しになると予想される。その第一歩として日本人女性電子音楽家による作品数を蓄積することが、国内外の電子音楽界に豊かな発展をもたらすと考える。

5. 参考文献

- GRID. (2016) "Feminist Activism during Darmstädter Ferienkurse 2016" <https://griddarmstadt.wordpress.com/>. Accessed March 21, 2020.

PRS Foundation. (2017) “KEYCHANGE” <https://keychange.eu/>. Accessed March 21, 2020.

McCartney, Andra. (1997) “Creating Worlds For My Music To Exist: How Women Composers of Electroacoustic Music Make Place For Their Voices.” https://www.academia.edu/194482/Creating_Worlds_for_my_Music_to_Exist_How_Women_Composers_of_Electroacoustic_Music_Make_Place_for_their_Voices. Accessed March 22, 2020.

Liao, Lin-Ni. 2018. “Taiwanese Women Composers of Mixed Music with Their Cultural Heritage.” In *Contemporary Music Review*, 37(1-2), 161-173.

rateyourmusic. (2019) “women in electroacoustic, minimalism, tape music, musique concrète, free improvisation, and related genres.” <https://rateyourmusic.com/list/hardboiledbabe/women-in-electroacoustic-minimalism-tape-music-musique-concrete-free-improvisation-and-related-genres/4/>. Accessed March 22, 2020.

kapralova society.(1998) “women composers of new music, music for the stage & screen, jazz.” <http://www.kapralova.org/LIST.htm>. Accessed March 22, 2020.

川崎 弘二 (2006) 「第四章 一 日本の電子音楽主要作品」『日本の電子音楽』524-613, 東京: 愛育社.

小林 緑 (1999) 『女性作曲家列伝』 東京: 平凡社.

水野 みか子 (2012) 「EMSAN/JSSA データベース報告—GRMにおける1970年以前の邦人作曲家の仕事について—」『先端芸術音楽創作学会会報』4(3), 17-20.

小林 緑 (2002) 「会報創刊に寄せて」『女性と音楽研究フォーラム会報創刊号』 Vol.1, 1.

渡辺愛 (Ai WATANABE)

作曲家。東京音楽大学を経て渡仏、パリ国立地方音楽院修了。東京藝術大学大学院博士後期課程修了。リュック・フェラーリ研究で博士号を取得(学術)。第一回東京音楽大学学長賞(日本)・TEM主催JAPAN2011受賞(イタリア)・ピエール・シェフェール賞セミファイナリスト(フランス)、第三回プレスク・リヤン賞ファイナリスト(フランス)。国営ラジオでの放送(France Musique)、FAF(富士電子音響芸術祭)・FUTURA(フランス)・NIT(スペイン)、ICMC(韓国)等の音楽祭での上演など国内外で評価を得る。東京藝術大学・尚美学園大学・昭和音楽大学各非常勤講師。日本電子音楽協会理事。先端芸術音楽創作学会会員。JWCM女性作曲家会議メンバー。



この作品は、クリエイティブ・コモンズの表示 - 非営利 - 改変禁止 4.0 国際ライセンスで提供されています。ライセンスの写しをご覧になるには、<http://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/> をご覧頂るか、Creative Commons, PO Box 1866, Mountain View, CA 94042, USA までお手紙をお送りください。

6. 著者プロフィール

森下周子 (Chikako MORISHITA)

作曲家。東京藝術大学修士課程で学んだのち、英国ハダースフィールド大学で MA by Research と PhD 取得。2011年よりベルリン拠点。